



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第11号

2016年 6月29日

日本国憲法の役割と私達は？

7月10日参議院議員選挙投票日ですが、今後の日本の在り方を決めていく重要なターニングポイント、転換点となる場面です。職員の皆さんは是非投票に行ってください。選挙遊説ではあまり踏み込まれていない論点が憲法問題です。場合によっては、第9条を象徴的な軸とする平和憲法である「日本国憲法」に対して「国民主権」から「日本国」へと軸足を変えるように改憲発議が進むかもしれません。立憲主義を基本とする日本国憲法は国の行くべき目標を掲げ、国が誤った方向にいかないために、政府や国会等を制約する基本法です。国民を規制誘導するためのものではありません。

今選挙ではこのことが中心になる必要があるのに関わらず、現政権はその議論を敢て避けている気がしてなりません。所謂争点隠しです。戦後生まれとして現憲法の恩恵に密に浴してきました私はそう思わざるを得ません。

今世界は貪欲にグローバル化しており、イスラム教圏域の騒乱やアフリカ諸国の飢えと混乱の中で、テロや襲撃、戦争、拉致、生存を求めて海外へ避難等が広がって、毎日、情報媒体を通じて知ら占められている通りです。

島国として安穏と暮らして来た私達は、海外に日本企業が積極的に進出する過程で、自ずと世界に関わらざるを得たくなってきた側面を持っています。

肥大化する軍備力は相乗的に相互に強化されて限り無く、何が世界の中で平和で、豊かに生き抜くために必要か見通すことが出来ません。安倍政権では日米協調の基調から、世界の警察官として君臨するアメリカに従うのが方向となっています。

また、行き過ぎたグローバル化によって、持つものがより持ち、持たざる者がより失う圧倒的な競争社会になり、限りなく淘汰される競争社会をひた走りに進んでいるように見えます。

このような情勢下では、以前、藤沢の特養の朝礼で、藻谷浩介氏の「里山資本主義」の話をしたことがあります。彼の主張するように「内輪のエリア」深め、豊かにし、循環させる経済社会の構築が必要ではないのかという主張が必要と思います。不透明な行く先をしっかりと確認し確実な歩程を築いていくべきで、社会の動きをスローダウンさせることにより、「豊かさ」を守るべきです。

職員の皆さん！こうした点を参考に判断してください。後で後悔することの無いように！

以 上